

# Academic Library 著者自らが新刊を紹介します。

## 「語り」は騙る —現代英語圏小説のフィクション

文学部・教授・平林美都子(著)

▶四六判▶250ページ▶彩流社▶2,800円+税▶  
2014年3月25日発行

▶「語り」が「騙る」となってどのようにフィクションの可能性を広げていくのか——。自伝風小説や視点が限定された三人称小説などの「解釈を拒む」文学作品に対して、読者がいかに解釈を織り込み、文学テキストというダイナミズムに解放していくのかを論じた。



## 高等教育制度と大学設置認可行政

文学部・准教授・三和義武(著)

▶A5判▶144ページ▶多賀出版▶3,000円+税▶  
2013年11月10日発行

▶本書は、戦前・戦後における高等教育制度を概観した上で、大学設置認可行政の変遷・変容の態様を問うものである。とりわけ1991年に制定・施行された大綱化に焦点をあて、その前後に生じた設置基準の厳格化による量的抑制や規制緩和政策による量的拡大の変化の様相を検討していく。



## 「変態」という文化 —近代日本の〈小さな革命〉

文学部・助教・竹内瑞穂(著)

▶A5判▶324ページ▶ひつじ書房▶5,600円+税▶  
2014年3月14日発行

▶激動する政治経済と華やかなモダン文化に彩られた日本の1920～30年代は、奇妙にも「変態」で満ち溢れた時代でもあった。本書は、当時の文学・心理学・映画・マスメディア等に現れた「変態」に焦点を当て、それが日常を組み替える〈小さな革命〉であったことを明らかにする。

